

人生100年 健やかに生きる

〔体育・スポーツとともに〕

19

NPO法人 ならスポーツクラブ理事長

北 良夫 (91)

10月9日は「スポーツの日」全国各地で多彩なスポーツ行事が行われた。そもそも祝日の発端は1964(昭和39)年に開催された東京オリンピックを記念して、翌65年に「体育の日」として制定されたものが、時代は大きく変化して、2020年に名称を「スポーツの日」と改められた。一方、百年の歴史を持つ「日本体育協会」でも、18年「日本スポーツ協会」と名称を変更、全国都道府県、市町村の体育協会の名称も改められた。

日本体育協会初代会長の嘉納治五郎氏は、協会の設立に当たって「体育」を人格形成を

体育からスポーツへ

文化として親しまれる

目指す教育的営みと捉えながら、一方でオリンピック参加に備えて、スポーツもその一環として競技の育成を図ってきた。すなわち体育には、「スポーツを含む」という広義の解釈でこれを進めてき

を意味したものであった。 「スポーツはしよせん遊び、だから楽しくなければならぬ」1952年ヘルシンキオリンピック三段跳び金メダリスト田島直人氏もこう述べている。だ

文化であることは言うまでもないこと。スポーツが体育と置き換えられ、それが文化としての理解が得られなかった長い時代があった。 フランスの教育学

者、ポールラングラン

来、国民の間にスポーツが広がり、スポーツのことが多用されるようになって、スポーツは勝敗を競うだけでなく、楽しい面白い、そして健康づくりに役立ち、だれでも手軽に行うものとの理解が広まった。

たのである。しかし似て非なるもの、その本質は異なるものであり、さまざまな議論が交わされてきた。 もともと、スポーツの語源は、ラテン語の「デポタレ」(束縛から離れるの意味)、仕事から離れて気分転換するいわゆる「遊び」

が勤勉な日本人には、スポーツを遊び感覚ではなじめず、スポーツを「体育」と置き換えて発展してきた経緯がある。学校の課外の部活動においても「体育部」と「文化部」に分けられて「体育は文化でない」との印象を与えてきた。スポーツも

(1910~2003)も、「スポーツは健康だけにとどまらず、精神とつながり文化として重視されるもの。ある特定のもののだけ、ある特定の時期だけのものではない」と述べている。

60年前に開催された東京オリンピック以



ことし5月の「第14回50mダッシュ王選手権 in 奈良」で子どもたちとダッシュする著者＝奈良市法蓮佐保山4の口ートフィールド奈良

掲載

時代は変化し、スポーツが人々のライフワークに「する・見る・支える」立場で取り入れ、人生100年を豊かに生きるための文化として、人々に親しまれる時代を迎えている。Ⅱ第2、4土曜日